

ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドの持つ社会的影響の評価モデル

衆議院調査局調査員

瀬上 翔

(文部科学調査室)

■要旨■

本稿は、英国のアバディーン大学と慈善団体であるライブ・ボーダーズによる文化政策評価プロジェクトの初期段階として、ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドとその保管・展示施設が、立地しているガラシールズの町に与える社会的影響の評価方法を考察するものである。ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドは、世界最大のコミュニティ・アーツ・プロジェクトによって作成された世界最大級のタペストリーであり、スコットランドの文化や歴史を表現した文化資源であるとともに、かつて繊維産業で繁栄したガラシールズの再開発計画の中心となる観光資源でもある。このような特徴を踏まえ、ガラシールズにおいて想定又は期待される社会的影響を、経済的影響、文化的影響、人々の生活への影響に分類し、それぞれを評価する方法について考察した。その結果、小規模コミュニティに適した質的方法を中心とした評価方法が有効であることが示唆された。

《構成》

はじめに

I ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドの背景

II 「社会的影響」と「評価」の考え方

III ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドの社会的影響評価モデル

おわりに

はじめに

本稿は、英国のアバディーン大学と慈善団体であるライブ・ボーダーズによる文化政策評価チームに参加した筆者が、評価プロジェクトの初期段階として、ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランド及びそれを保管・展示するビジターセンターが、立地するガラシールズの町の地域社会に及ぼす社会

的影響の調査方法を考察し、評価チームに提案したものである¹。

ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドは、世界最大級のコミュニティ・アーツ・プロジェクトとして、スコットランド中から集まった1,000人のボランティアが手縫いで作り上げたものであり、スコットランドの地理的形成から現在に至るまでの文化や歴史が視覚的に描写されている。

かつて繊維産業で繁栄した歴史があるガラシールズの町に2021年8月に開館したビジターセンターは、地域の人々の交流や文化体験への活用が意図されており、タペストリーとビジターセンターは、国家や地域の歴史と文化に強く結び付いた文化資源といえる。

また、このビジターセンターの建設は、ス

¹ タペストリーとは、麻・ウール・絹等を用いて、絵や模様を織り出したつづれ織り。また、それを用いた壁掛けのこと。

コットランド政府、スコティッシュボーダーズ地方政府、鉄道会社から多額の投資を受けた地域再生計画の要でもあり、観光産業の振興を通して地域への経済的な貢献が期待されているものでもある²。

ただし、この計画がスコットランド議会で議論された際には、ビジターセンターの建設に多額の資金が投入されることで、スコットランド政府とスコティッシュボーダーズ地方政府に 30 年にわたる多額の財政負担が発生することを危惧する意見もあった³。これは、ひっ迫した財政状況の中で、文化事業や観光事業の振興が、医療や福祉のようなより直接的な住民サービスよりも優先される必要性について懸念があったということである。

こうした懸念に対応するための方法の一つは、タペストリーとビジターセンターが地域社会にどのような影響をもたらしているかを評価することである。公共的な性格を持つ施設や文化資源の影響評価は、政府の説明責任を果たすために利用されるだけでなく、今後のより良い活用方法を考える際の材料とすることができる。評価は政策に対する疑問に答えるだけでなく、文化資源の社会的な価値を高めることにも役立つのである。

また、前述のようにタペストリーは地域の歴史と文化に結び付いた文化資源である。そのため、時間の経過とともに、他の文化遺産と同じようにその文化的価値を増加させる可能性を持つものである。また、ビジターセンターには時期や状況に応じて利用方法を変える設備が備えられている。こうしたことから、そのタペストリーとビジターセンターの社会的影響は、継続的かつ定期的に評価され、その結果を運営の意思決定に利用できるような

形式で出力されることが望ましい。

本稿の目的は、タペストリーとそれを展示するビジターセンターのガラシールズの町に対する社会的影響の評価方法を考察することである。本稿では、まず、タペストリーの背景を踏まえた上で、「社会的影響」及び「評価」の考え方を示す。次いで、先行研究を元に、タペストリーの展示とビジターセンターの活動が地域社会に社会的影響をもたらすメカニズムについて仮説を立て、それを基にタペストリーとビジターセンターの持つ社会的影響の評価方法について論じていく。

I ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドの背景

本章では、ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドの概要及び社会的な背景について説明する。

1 ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランド

ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドは、それぞれが独自の物語を持つ 160 枚のパネルで構成されており、4 億 2,000 万年前のスコットランドの地理的形成から現在に至るまでの文化や歴史を視覚的に説明するものである。160 枚のタペストリーをつなげた場合の全長は 143m であり、世界で最大級のタペストリーである。

このタペストリーは、コミュニティ・アーツ・プロジェクトとして、スコットランド全土から集まった 1,000 人のボランティアが 2 年間かけて作り上げたものであり、2013 年にスコットランド全土を巡回して展示された。

² Phyllis Stephen, “The Great Tapestry of Scotland has a new home.” *Edinburgh Reporter*, August 21, 2021. <<https://theedinburghreporter.co.uk/2021/08/the-great-tapestry-of-scotland-has-a-new-home/>> (2023. 8. 7 閲覧)

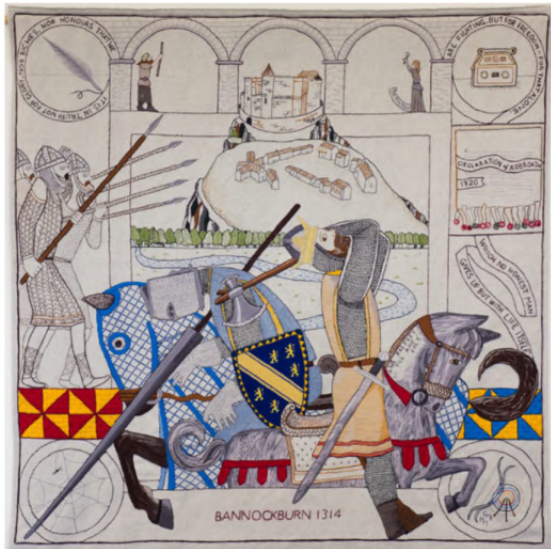
³ “Great Tapestry of Scotland’s Tweedbank business case examined” *BBC*, January 28, 2016. <<https://www.bbc.com/news/uk-scotland-south-scotland-35427552>> (2023. 8. 7 閲覧)

展示ギャラリー



(出所) ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドHP

タペストリー（バノックバーンの戦い）



(出所) ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドHP

2 ビジターセンター

タペストリーは 2021 年からガラシールズのビジターセンターで展示されている。ビジターセンターの運営主体は慈善団体であるライブ・ボーダーズである。

このビジターセンターは2階建ての建物であり、2階にタペストリーと専用ギャラリー、1階にカフェ、企画展示用のギャラリー、イベントスペース等の、文化及び教育を目的としたイベント開催や地元の人々の交流のための場所がある。

ビジターセンター外観



(出所) 執筆者撮影

ビジターセンターは町の中心部に位置しており、鉄道駅及びバスセンターからは徒歩で5分程度の距離にある。また、近辺に十分な広さの非常に安価な駐車場があるため、電車や貸切りバスによって比較的遠方から訪れる旅行者にも、乗り合いバスや自家用車を利用する地元の人々にとっても来場しやすい立地となっている。

3 ガラシールズ

ガラシールズはスコットランドとイングランドの国境にあるスコティッシュボーダーズ地方のほぼ中心に位置しており、人口は約1万2,600人と、スコティッシュボーダーズ地方の最も大きな町の一つである。ガラシールズは、多くの観光客が訪れるエジンバラから高速道路と鉄道で接続されており、どちらの手段を用いても1時間程度で訪れることができる。

ガラシールズの近辺には、有名な詩人・小説家であるサー・ウォルター・スコットの邸

宅であるアボッツフォード・ハウスや、中世の壮大な修道院跡であるメルローズ修道院、古代ローマ帝国時代の遺跡の展示を行うトリモンティウム博物館といった文化的資源がある。

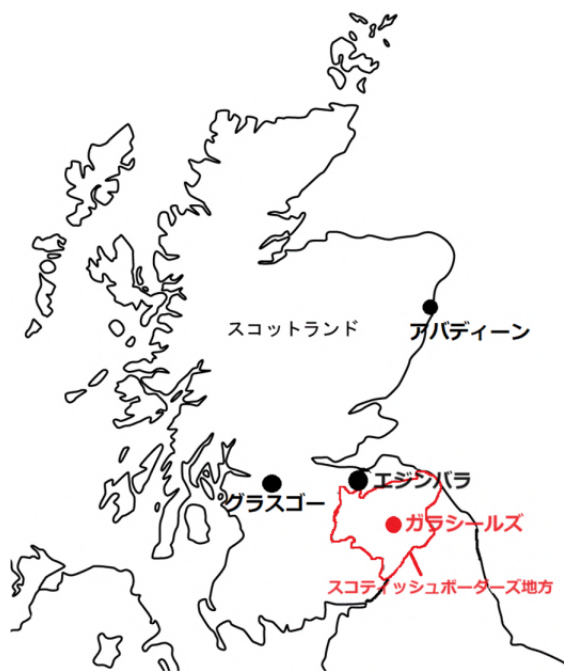
また、ガラシールズは、産業革命の時代に水車を利用した繊維産業によって繁栄し、1940年代においても、ガラシールズの労働力の3分の1は繊維産業に従事していた。1960年代には、先進的なデザインによって、ガラシールズの繊維製品は国際的な名声を得ていた。現在は、国際的な競争によって繊維産業は衰退しているが、現在においてもガラシールズにとって繊維産業は重要な意味を持っている。

このようなガラシールズの地理的・歴史的・文化的条件は、ガラシールズが観光地としての高い潜在能力を持つと考えられていることの背景となっている。加えて、ガラシールズには大型の小売店が進出しており、周辺地域のショッピングセンターとしての役割を持っている。このようなことから、ガラシールズには周辺地域の住民が集まる環境があり、住民の交流や地元民向けのビジネスを発展させる潜在能力も有している。

一方で、近年、ガラシールズにおいて、中心部の衰退は大きな課題であった。例えば、2015年から2016年にかけてガラシールズ中心部の小売店空室率は17%であり、これはスコティッシュボーダーズ地方の中で最も高い水準であった。また、ガラシールズの失業給付受給率はスコティッシュボーダーズ地方で最も高くなっていた⁴。その他、2020年スコッ

トランド重複剥奪指標⁵によると、ビジターセンターを含むガラシールズの中心エリアの剥奪度は、スコットランド全体で6,976エリアあるうちの1835位と高い水準にある。収入の剥奪度が2817位、雇用の剥奪度が1721位、健康の剥奪度が1684位、教育の剥奪度が1526位である。また、犯罪率は74位と非常に高い順位を示している⁶。

ガラシールズの位置



(出所) 執筆者作成

4 ガラシールズの再開発計画

ガラシールズの再開発の直接の契機となったのは、2015年のボーダーズ鉄道の開業である。この路線の開業はスコティッシュボーダーズ地方の経済対策としてスコットランド議会で提案されたものであり⁷、ガラシールズは、

⁴ Scottish Borders Council, "GALASHIELS MASTERPLAN (REGENERATION FRAMEWORK)." January 25, 2018.

⁵ スコットランド政府による統計。スコットランドを、6,976のデータゾーンに分割して、7つの分野（所得、雇用、健康、教育・技能・訓練、サービスへの地理的アクセス、犯罪、住宅）の状況を調査したもの。「剥奪」は、住民の収入や社会的機会、地域資源等からなる複合的な概念であり、順位が高いほど地域の状況が悪い。

⁶ Scottish government, "Scottish Index of Multiple Deprivation 2020." <<https://www.gov.scot/collections/scottish-index-of-multiple-deprivation-2020/>> (2023.8.7閲覧)

⁷ TheyWorkForYou, "Borders Rail Link - in the Scottish Parliament at 5:01 pm on 10 November 1999." <<https://>

駅前のバスセンターからのバス路線によって鉄道とスコティッシュボーダーズ地方の各地を接続する交通ハブとして期待されていた⁸。

ビジターセンターの建設は、スコティッシュボーダーズ地方の地域再生計画の中で、ガラシールズ再開発の第一段階として位置付けられた。地域再生計画では、ガラシールズにおけるビジターセンターの建設に加え、スコティッシュボーダーズ地方の交通網と宿泊施設の整備、イベントの開催等、観光産業の強化を目指すことが強調されている⁹。

ガラシールズにおけるビジターセンター運営以外の再開発計画は、地元ボランティアによって組織された慈善団体であるエナジャイズ・ガラシールズ・トラストが中心となって実施している。エナジャイズ・ガラシールズ・トラストは3年単位で具体的な事業計画を策定し、資金調達を行い、町中心部の整備やウェブサイトによる情報発信を行っている¹⁰。

5 課題

一方で、ガラシールズの再開発計画はロックダウンをはじめとした新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対策で大きく遅延した。ビジターセンターの開業も2021年の春から8月に延期になり、開館時間も2022年4月まで短縮されたことで、来場者数に負の影響があったと考えられている¹¹。

また、ビジターセンターの設置に対し否定的な意見もある。例えば、評価チームが評価プロジェクトの準備のために実施したインタ

ビューに応じた住民の中には、この施設は外部から押し付けられたものであり、税金の無駄だと考えていると答えた者がいた。スコットランド議会でビジターセンターの建設を議論した際にも、スコティッシュボーダーズ地方政府の財政がひっ迫する中で長期にわたる租税負担を住民に課すことに反対する意見があった¹²。また、この時には、政府が財政的理由で行政サービスの削減を進める中、計画から予想される利益が少ないことを理由とする4,000筆以上の反対署名が集まっていた¹³。

II 「社会的影響」と「評価」の考え方

本稿の目的は、タペストリー及びビジターセンターが持つ社会的影響を評価する方法を考察することである。しかしながら、社会的影響も評価も非常に多くの概念を包含する用語であり、使用される文脈で意味が異なる。本章では、タペストリー及びビジターセンターが持つ社会的影響を適切に評価するため、文化資源及び観光資源が持つ社会的影響がどのように考えられるか、また、事例に応じた評価がどのように実施されるかについて、先行研究を通じて考察する。

1 「社会的影響」の考え方

先行研究において、社会的影響は、イベントやパフォーマンスの成果物や実施が人々の生活に継続的かつ直接及ぼす影響と定義される¹⁴。ほかには、活動や投資によって生み出される社会的・環境的变化と定義されることも

www.theyworkforyou.com/sp/?id=1999-11-10.480.0 (2023.8.8閲覧)

⁸ Borders Railway, “Maximising the impact: A Blueprint for the future.” 2014.

⁹ Scottish Borders Council・前掲注4

¹⁰ Energise Galashiels Trust, “Tapestry Way Regeneration Study & Action Plan.” March 2022.

¹¹ Energise Galashiels Trust, “ANNUAL REVIEW 2020-2021” <<https://www.energisegalashiels.co.uk/annual-reviews/>> (2023.8.8閲覧)

¹² BBC・前掲注3

¹³ “Great Tapestry of Scotland: Tweedbank home decision contested” *BBC*, September 25, 2015. <<https://www.bbc.co.uk/news/uk-scotland-south-scotland-34383198>> (2023.11.7閲覧)

¹⁴ Sandra Gattenhof et al., *The Social Impact of Creative Arts in Australian Communities*. Singapore: Springer

ある。その中には、外部から誘発された行為の結果として、意図した効果と意図しない効果、ネガティブな効果とポジティブな効果、長短両方の効果が含まれる¹⁵。しかしながら、これらの典型的な定義は非常に抽象的であり、社会的影響という用語の定義に明確な合意は存在していないとも言われている¹⁶。

特定の事象に起因する社会的影響のうち重要と考えられるものは、場所やプロジェクト、影響を受けるコミュニティによって異なる¹⁷。そのため、特定のイベントや政策、施設、文化資源の社会的影響を具体的に考察するためには、まず対象となる現象の背景及び特徴を個別に踏まえる必要がある。その上で、評価したい影響を明確化することが求められる。

2 「評価」の考え方

Iに示した背景を考慮すると、タペストリー及びビジターセンターは、地域社会に対し、文化資源としての影響、観光資源としての影響を持っていると考えられる。

(1) 文化資源の影響評価

認知的、行動的、健康的、社会的、経済的便益など、文化資源による便益についての包括的な先行研究では、他の(文化資源以外の)手段によっても達成できるかもしれない便益を「道具的価値 (instrumental value)」と表現している。「道具的価値」とは、例えば経済的成果であり、主に量的な方法によって測定されるものである。一方、文化資源による便

益が、人々の生活に付加価値を与える効果を指す場合には、「制度的価値 (institutional value)」と表現している。「制度的価値」とは、例えば文化資源に接触した人々の健康や幸福感、ストレスや不安への対処能力、他者や文化への理解といった人々の生活の質(QOL)への影響である¹⁸。これらは影響の受け手となる人々の価値観や社会的状況と相互依存的なものであり、主に質的方法によって調査される。そのため、「制度的価値」は「道具的価値」と比べて測定することが難しい。結果として、イベントや施設への来場者数などの需要指標に基づく方法が文化資源の影響評価の主流となっていることが指摘されている¹⁹。

(2) 観光資源の影響評価

一方、先行研究において観光政策の社会的影響は社会的交換理論に基づいて分析されてきた。社会的交換理論によれば、住民は観光開発を、負担の見返りとして得られる利益から評価する。そのため、これらの研究においては、観光開発・発展が個々の住民や地域社会全体のQOLに与える具体的な環境変化について、住民がどのように認識しているかということについて焦点が当てられてきた。しかしながら、こうした社会的交換理論に基づく研究において、直接住民のQOLを測定するものは少ない。これらの研究は、例えば、観光開発によって活発になったギャンブルが地域に与える変化を測定するものなど、具体的な個別の変化に注目したものが多くなって

Singapore, 2021, p. 2.

¹⁵ Mark J. Epstein and Kristi Yuthas, *Measuring and improving Social Impacts: A Guide for non-profits, companies, and impact investors*. San Francisco: BK Business, 2014.

¹⁶ Sandra Gattenhof et al.・前掲注14, p. 8.

¹⁷ Cecilia Grieco, *Assessing Social Impact of Social Enterprises: Does One Size Really Fit All?* Cham: Springer International Publishing AG, 2015, pp. 44-45.

¹⁸ Kevin McCarthy et al., *Gifts of the muse: Reframing the debate about the benefits of the arts*. Santa Monica: RAND Corporation, 2004.

¹⁹ Alan S. Brown and Jennifer L. Novak-Leonard, "Measuring the intrinsic impacts of arts attendance." *Cultural Trends*, 22, July 2013.

いる。測定対象となった変化は多岐にわたり、これには、地元の事業や雇用への影響だけでなく、住民が受ける地域サービスの質、地域の治安や生活環境などが含まれる²⁰。観光開発が引き起こした環境変化の住民のQOLへの影響は、文化資源の制度的価値と同様に、観光開発によって影響を受ける地元住民の価値観や社会的状況と相互依存的なものであり、解釈のためには評価対象や調査協力者それぞれの背景を考慮する必要がある。

Ⅲ ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドの社会的影響評価モデル

タペストリー及びビジターセンターは高い文化的価値を持つ文化資源であり、観光客をガラシールズの町に呼び込む潜在能力を期待される観光資源である。そのため、現在進行中のガラシールズ中心部の再開発計画においても、タペストリー及びビジターセンターは戦略的に重要な位置を占めている。本章では、地域社会からタペストリーが期待される役割を踏まえ、経済的影響、文化的影響、地域の人々の生活への影響の観点から、社会的影響が地域社会に及ぶメカニズムを仮定し、その評価方法を考察する。

1 経済的影響の評価

文化資源が地域社会に経済的な恩恵をもたらすことは多くの研究に指摘されている²¹。文化資源による経済的影響を評価する場合、多くの研究で地域社会での消費の増大を測るものである経済効果の試算が用いられている²²。

経済効果の試算のためには文化資源に起因する消費に関する統計的なデータが必要になるが、本評価案は狭い地域を対象としたものであるために地理的範囲に対応する産業連関表などの統計調査が存在せず、また、評価チームにおいて分析に利用できる精度と規模の統計調査を自ら実施することは非現実的であり、需要に基づく測定である経済効果の試算は困難である。そのため、地元事業者から1次データを収集することによる、供給側の変化に着目した評価を行う。

(1) 経済効果の試算

経済的影響を評価する方法の代表的なものは、経済効果の試算である。経済効果の試算とは、調査の対象となる地域における消費の総増加量を試算するものである。経済効果の試算は、経済的影響の評価方法として、公的、私的を問わず、幅広い文化インフラの活動に対して実施されている²³。

経済効果の試算の方法には、大まかに、ケインズ派の所得乗数モデルを使用する方法と、レオンチェフの産業連関モデルを使用する方法がある。

ケインズ派の所得乗数モデルは、所得に対する消費の割合、所得に対する税率、輸入材の消費の割合から、直接的な消費がもたらす波及効果を試算するための乗数を作り、試算を行うもので、産業連関表を用いた方法と比較すると、データが不足しているときなどに利用しやすい²⁴。

一方、レオンチェフの産業連関モデルを用

²⁰ Margaret Deery et al., "Rethinking Social Impacts of tourism research: A new research agenda." *Tourism Management*, 33(1), February 2012, pp.67-69.

²¹ Luis César Herrero et al., "The economic impact of cultural events. A case-study of Salamanca 2002, European Capital of Culture." *European Urban and Regional Studies*, 13(1), January 2006, pp.41-57.

²² Maria Llop and Josep-Maria Arauzo-Carod, "Economic impact of a new museum on the local economy: "the Gaudí Centre". " *Letters in Spatial and Resource Sciences*. 5, March 2012, pp.17-23.

²³ 同上

²⁴ 同上

いた方式は、政府が大規模な調査の上で産業
連関表を作成している場合に利用できる²⁵。

そして、どちらの方法を使うとしても、直
接効果を試算することが、まず必要になる。
本評価案における直接効果とは、タペストリ
ーの存在が原因となって発生した、ガラシ
ールズの経済に対する消費額の総額である。ビ
ジターセンターの運営によるガラシールズへ
の支出と、観光客がビジターセンターへの訪
問に関連してガラシールズで支出した消費が
該当する。

しかし、ビジターセンターの運営による支
出がどの程度地元企業に対するものかとい
うことを特定することは現実的に難しいと考
えられる。また、交通費、宿泊費などの観
光客による直接消費の計測を行う地理的な
範囲は、少なくともスコティッシュボー
ダーズ地方で行われたものにする必要があ
る。ビジターセンターへの来訪者が電車や
バスに支払った交通費はガラシールズの
地元事業者への支出ではなく、宿泊も周
辺地域で行われている。ガラシールズに
おける宿泊施設の不足はスコティッシュ
ボーダーズ地方政府の地域再生計画でも
指摘されているところである²⁶。

このような理由から、ガラシールズに対
するタペストリーの直接効果を推計する
ことは難しい。また、地元企業がどの程
度別の地元企業に対して支出を行っている
かを詳細に調査し、乗数を仮定するの
も現実的ではない。なお、スコットランド
政府はスコットランド全体の産業連関
表を作成しているが、スコティッシュ
ボーダーズ地方やガラシールズのレ
ベルでは作成されていない²⁷。産業連
関表は

経済構造を反映するものであるため、ガ
ラシールズの試算にスコットランド全
体の産業連関表を使用することは適切
ではない。ガラシールズにおける消費
の直接効果だけでなく、波及効果を
測定することも困難である。

また、ガラシールズへの影響評価を
目的とした場合、経済効果の試算
にはもう一つ大きな問題がある。
所得乗数モデルや産業連関モデル
のような方法では、消費額とその
波及効果の総量は試算されるが、
それが地域社会の誰にとっての
経済的な利益かを判断することは
困難である。地方で展開されて
いる大企業（チェーンストア、
銀行やサービス企業の支店、
製造工場など）が、地元で
経営されているケースはほとん
どなく²⁸、地元民は来訪者
や施設運営による消費の恩恵
を一次的、二次的といった段
階では受けない。

そのため、地元の人々への経済的影
響を評価する場合、このように
観光客による消費に着目した
ものではなく、異なるアプ
ローチが必要になると考
えられる。

(2) 地元事業者への影響

消費の総増加量、すなわち経済効果の
総量を測定する方法とは異なるア
プローチとして、タペストリー
及びビジターセンターの持つ
地元事業者への直接的な影
響の評価方法を提案
したい。

ビジターセンターへの来訪者が、
地域で経営される店舗の
売上げや客層に変化を
引き起こすことは、
単純に直接的な影
響である。ほかに
も、地元事業者
への影響として考
えられるもの
には、店舗の
賃貸料の変化
や、町の中

²⁵ VanBlarcom Brian, “Assessing the Economic Impact of Sport/Recreation/Cultural Events/Facilities: A Guide.” June 2007, pp.28-31.

²⁶ Scottish Borders Council・前掲注4

²⁷ Scottish government, “Supply, Use and Input-Output Tables: 1998-2019”, October 26, 2022. <<https://www.gov.scot/publications/input-output-latest/>> (2023.10.24 閲覧)

²⁸ Katherine Maddox McElroy and John J. Siegfried, “The community influence on corporate contributions.” *Public Finance Quarterly*, 14(4), October 1986, pp.394-414.

心部の空き店舗数の変化が考えられる。文化施設や文化的なイベントの開催は、再開発計画が意図するように、新たな事業や移住者を引き付けるためである²⁹。

加えて、文化資源は、地域のアイデンティティの変化を通して商業活動に影響を与えることが考えられる。文化資源が住民の自らの町に対する認識を変容させた場合、地元の人々に向けてのサービスも同じく変容する³⁰。ガラシールズでは、ビジターセンターの開業後に開店した複数のカフェは、クラフト（工芸品の手作り体験）のためのスペースの設置や、アーティストによる商品の展示販売を行っている。

ア 方法

文化資源が地域に持つ影響は、文化資源の持つ特徴や地域の社会的背景が複雑に影響し合って生じるものである。タペストリー及びビジターセンターの地元事業者への影響評価は、量的評価と質的評価を混合的に用いて個別事例を深く探求する考え方に基づく方法によることが適切であると考えられる。

イ サンプリング

経済的影響の評価案では、ガラシールズの街の中心部に所在する、できるだけ多くの事業所を対象とするのが良いと考えられる。文化資源は、都市再生地区に空間的に集中した産業の発展を助けるとされる³¹。ガラシールズ中心部には、駅、バスセンター、駐車場、主要なレストラン、商店及びもう一つの観光地となり得るオールド・ガラ・ハウスが含ま

れており、ビジターセンターの来訪者の行動範囲として合理的である。一方、この範囲には多様な事業が存在するものの、事業者数の総数は多くないと考えられるため、サンプルの抽出を行った場合、収集した情報に強いバイアスを生じさせる可能性がある。そのため、可能な限りのデータ収集の後に、生じていると考えられるバイアスについて分析を行うのが合理的であると考えられる。

ウ データ収集

データ収集は、アンケート調査によって行う。アンケート調査は比較的短時間でデータの収集を行うことができる長所がある。一方で、アンケートの回答が真実であるかを確認することが難しいこと、参加者が質問を意図したとおりに解釈したかを確認することが難しいことが欠点となる³²。そのため、アンケートの質問はできる限り明確なものになるよう注意が必要である。

アンケート調査は、年単位の売上げや業種といった単純に回答できる質問と、ビジターセンターの開業を受けたビジネスの変化などの自由記述を求める質問から構成する。また、ビジターセンターの開業による変化の影響を調べるためには、開業以前のデータを基準として収集する必要があるが、2021年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって社会全体が大きく影響を受けた³³。そこで、本評価案では、収集可能かつ比較可能と考えられるデータである売上げと従業員数について、感染拡大の影響が小さくなってきた 2022 年

²⁹ Daniel Silver, "The American scenscape: amenities, scenes, and the qualities of life." *Cambridge Journal of Regions, Economy and Society*, 5(1), March 2012, pp.97-114.

³⁰ Heba Assem ElFouly and Aly Abdel-Gawad Ghaly, "The perceived impact of pedestrianization on local businesses in Al-Muizz Egypt: A case study." *International Journal of Development and Sustainability*. 6(7), July 2017, pp. 409-410.

³¹ Erik Hitters and Greg Richards, "The Creation and Management of Cultural Clusters." *Creativity and Innovation Management*, 11(4), December 2002, pp. 234-247.

³² Donna M. Mertens and Amy T. Wilson, *Program evaluation theory and practice a comprehensive guide*. 2nd edition. New York; London: The Guilford Press, 2019, p. 357.

³³ Energyse Galashiels Trust・前掲注 11

と感染拡大前である 2019 年のデータの比較を行う。タペストリー及びビジターセンターが地元事業者に対して持つ影響を調べるために収集されるデータは下のようものが考えられる。

- ・業種
- ・開業年
- ・売上げ（2019 年、2022 年）
- ・従業員数（2019 年、2022 年）
- ・ビジターセンター開業による事業の変化（自由記述）又は事業におけるタペストリー及びビジターセンターと関係を持つ特徴（自由記述）

2019 年以降に開業した地元事業者には、事業のうちタペストリー及びビジターセンターと関係のある特徴を問うことで影響を調査する。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が発生した 2019 年には既にビジターセンターの開業は決定しており、新たに開業した事業者はビジターセンターの開業を予測していると考えられるためである。

エ 分析

売上げ及び従業員数については、回答者ごとに 2019 年と 2022 年の変化量を計算する。次に、計算された 2022 年と 2019 年の売上げ及び従業員数の変化量の分布や代表値を調査する。さらに、業種ごとに分類したデータに同じように変化量の分析を行うことで、どの業種に影響が出ているかを調査することができる。また、事業内容へのタペストリー及びビジターセンターの影響の有無によって分類されたデータを基に変化量の分布や代表値を分析することで、タペストリー及びビジターセンターの影響が認められる事業とそうでない事業の違いを調べることができる。

一方、自由記述の質問からは、タペストリー及びビジターセンターから事業に影響を受

けていると考えている事業者が、どのように変化を認識しているかを調査することができる。回答者の業種や変化量と合わせて分析することで、個別の地元事業者にタペストリー及びビジターセンターが与えている影響をより深く理解することができる。

オ 課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によってガラシールズ中心部の再開発計画を含む様々な社会の活動が停滞していたため、この評価案においては、ビジターセンターの開業を除いて地元経済に大きな影響を与えた要因がないと仮定している。実際には、地元事業者の売上げや従業員数といった量的な指標には、地元由来しない多数の要因が影響する。例えば、ウクライナでの戦争も物価高や為替の変動を通じて影響を及ぼしている可能性がある。また、海外からの来訪者数の変動は将来的に異なる影響を地元事業に与えることが予想される。継続した影響評価を今後行うためには、評価時点での外的な要因の影響を毎回新しく考察し直す必要がある。

2 文化的影響の評価

本節では、文化的影響として、主にタペストリー及びビジターセンターが「制度的価値」によってガラシールズの人々の生活に付加する価値を評価する方法を考察する。上述のように、文化資源は、経済的影響のような、文化資源以外の手段によって達成可能な「道具的価値」と、文化資源が人々の生活に付加価値を与える効果である「制度的価値」を持つ³⁴。

「制度的価値」には、文化資源に接触した人々の健康や幸福感、ストレスや不安への対処能力、他者や文化への理解といった人々の

³⁴ Kevin McCarthy et al.・前掲注 18

生活の考え方への影響が含まれる³⁵。文化資源に接した経験は、異なる可能な未来、異なる社会的ネットワーク、異なるアイデンティティとライフスタイルを想像する基盤となり、人生への姿勢や他者への態度に影響をもたらすとされており³⁶、例えば、地域における文化芸術活動は、特に恵まれない地域の人々が、健康状態の改善に取り組む能力を身に付けるのに役立つ³⁷こと、長期的な文化芸術活動への参加が人々の健康状態を改善すること等が報告されている³⁸。また、文化資源への接触は、想像力の刺激や活動の場を提供することで人々の社会参加を促すとされている³⁹。特に文化施設には、地域のアイデンティティを固定し、コミュニティへの帰属意識を生み出す能力がある⁴⁰。加えて、文化芸術体験は教育的影響を持つことも指摘されている。また、教育においては、文化芸術体験が、認知能力、自信、意欲、問題解決能力、コミュニケーション能力など、学習の基盤となる要素に貢献することが示されている⁴¹。

文化芸術体験が直接引き起こす影響は、個人の内部に生じた変化を通して様々な形で人々の行動や自己理解の上に現れる。しかし、人々の行動や自己理解は絶えず彼らを取り巻く複雑な文脈から影響を受けて形成されている上、文化芸術体験がもたらす個人レベルでの影響が最終的に社会にどのような影響を及ぼすのかを単純に示すことはできない。複雑

な個人の変化が、複雑な集団のプロセスと相互作用するためである⁴²。したがって、文化的影響の評価においては、地域社会に現れる現象を直接的に計測することよりも、人々が文化芸術体験をどのように内面に取り込んでいのかを分析することの方が有意義であると考えられる。

(1) 方法

タペストリー及びビジターセンターの文化的影響の評価案も、個別の事例について深く理解しようとする方法が適切であると考えられる。そのため、本評価案では、文化資源の持つ特性を考慮し、ビジターセンターの来訪者に対し、出口調査とその後のインタビュー（追加調査）を通して、ビジターセンターでの文化芸術体験がどのように人々の内面に影響を与えたかを調査する方法を考察する。

(2) サンプリング

文化的影響の評価案は、ビジターセンターにおける文化体験を経験した住民に生じた変化を理解するものである。そのため、住民から無作為に参加者を選ぶのではなく、意図的に条件に当てはまる住民を抽出する必要がある。そのため、出口調査によって、ビジターセンターの来訪者のうち、ガラシールズに居住している人に評価への参加を依頼する。

可能であれば、その上で異なる属性を持つ

³⁵ Kevin McCarthy et al.・前掲注 18

³⁶ Kirstin Anderson et al., “Inspiring Change: Final Project Report of the Evaluation Team.” February 2011.<<http://www.artsevidence.org.uk/evaluations/inspiring-change-final-project-report-evaluation-t/>> (2023. 8. 8 閲覧)

³⁷ Geoffrey Crossick and Patrycja Kaszynska, *Understanding the value of arts and culture: The AHRC Cultural Value Project*, Wiltshire: Arts and Humanities Research Council, 2016, pp.106-108.

³⁸ Lars Olov Bygren et al, “Attending cultural events and cancer mortality: a Swedish cohort study.” *Arts & Health*, 1(1), February 2009, pp.64-73.

³⁹ Geoffrey Crossick and Patrycja Kaszynska・前掲注 37, pp.59-61.

⁴⁰ John Holden, *Cultural Value and the Crisis of Legitimacy*, London: Demos, 2006.

⁴¹ Geoffrey Crossick and Patrycja Kaszynska・前掲注 37, pp.113-120.

⁴² Stern Mark. J and Seifert Susan. C, *Civic Engagement and the Arts: Issues of Conceptualization and Measurement*, University of Pennsylvania Social Impact of the Arts Project, January 2009.

参加者を更に抽出し、影響の内容を比較することが望ましいと考えられる。異なる属性を持つ参加者に共通して現れる影響は、ビジターセンターにおける文化芸術体験が住民の内面的変化に対して持つ影響の中でも重要なものである可能性があるためである⁴³。

(3) データ収集

ビジターセンターにおける文化芸術体験の直後においては、対面式アンケートを用いた出口調査が有効であると考えられる。対面式アンケートは後日行われる来場者への郵送調査や電話調査よりも回答率が高く、想起誤差が少ないという特徴がある⁴⁴。

追加調査においては、複雑な文脈を踏まえることができ、未知の要素を発見する可能性を持つ質的手法が必要とされる。この場合、自由回答が可能かつ、共通の項目についてデータ収集が可能な半構造化インタビューが効果的である。半構造化インタビューでは、あらかじめ決められた質問を行うことで参加者の回答を比較することができつつ、その場で追加の質問や確認を行うことで参加者の考えをより深く理解することができる。

実施する出口調査と追加調査では、下ののような項目について質問する必要がある。

○出口調査での質問：

- ・居住地
- ・ビジターセンターにおける文化芸術体験の間に考えていたこと

○追加調査での質問：

- ・ビジターセンターにおける文化芸術体験の後に行った文化的活動

- ・ビジターセンターにおける文化芸術体験の後にいったコミュニティでの活動
- ・ビジターセンターにおける文化芸術体験の後に起きた生活の変化

追加調査における質問は、タペストリー及びビジターセンターから受けた影響がどのように彼らの行動や習慣に影響を与えたかを探索するためのものである。特に、新しく始めた活動や久しぶりに参加した活動があれば、詳しく内容を尋ねることが重要である。なぜなら、文化芸術体験は個人の想像力に影響を与え、社会参加を促すからである⁴⁵。また、彼らの行動の変化は複雑な文脈の上で生じているため、文化芸術体験の後に特に印象に残っている生活の変化を尋ねることは、文化体験の影響を解釈する上で有益である。

(4) 分析

データの分析は、調査の参加者が出来事をどのように解釈しているかという理解に焦点を当てたグラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいて行う。グラウンデッド・セオリー・アプローチの強みは、収集したデータの分析を通じて、得られたデータに関する仮説を生成できることである⁴⁶。これにより、地元の人々のビジターセンターにおける文化体験と彼らのその後の文化活動や社会活動が関係していると考えられるかどうかを、インタビューによって得られたデータから解釈することができる。

(5) 課題

個人の行動の変容を通じた社会への文化資

⁴³ Lawrence A. Palinkas et al., "Purposeful sampling for qualitative data collection and analysis in mixed method implementation research." *Adm Policy Ment Health*, 42(5), September 2015, pp. 533-544.

⁴⁴ VanBlarcom Brian・前掲注 25, pp. 12-13.

⁴⁵ Geoffrey Crossick and Patrycja Kaszynska・前掲注 37, pp. 59-61.

⁴⁶ Yoko Nadamitsu et al., "A Comparison of Three Qualitative Research Methods: Grounded Theory Approach, Narrative Analysis, and Action Research", *Intercultural communication review*, 12, March 2014, pp. 68-69.

源の影響は、極めて複雑な文脈の中で起こり、直接観測することが難しいものである。個人の行動に現れる文化資源の影響は、背景が異なる個人によって意味の異なるものであり、単純に数量を計測することが難しい。そのため、質的手法による調査によって影響を探るのであるが、文化芸術体験との直接的な因果が推定される影響を見つけることが難しいことも起こり得る。

また、文化芸術体験による個人の意識の変容を示した論文の多くは、継続的な文化芸術プロジェクトへの参加や、文化芸術体験の習慣を通して個人の変化の様子を観察している。本評価案は一度の文化芸術体験がその後の彼らの思考や行動に影響を及ぼすかを探索しようとするものであり、明確な影響を発見することができない可能性も存在する。

3 人々の生活への影響の評価

本節では、タペストリー及びビジターセンターの観光地としての特徴に注目し、地元の人々の生活に与える影響を評価する方法を考察する。

観光地は、所在する場所の人々の生活に様々な影響を与える。観光客の増加は、消費や雇用の増加といったポジティブな変化をもたらす一方で、過密や観光客による破壊的な行動など、住民の住環境にネガティブな変化を引き起こすこともある⁴⁷。

例えば、観光客の増加は観光地に道や公園などの新しい施設をもたらすことがある。一

方で、地域の住民はその維持コストを負担する必要がある、観光客や定住人口の増加によって公共空間やサービスの混雑を感じる可能性もある⁴⁸。また、観光客の増加によって町に散らばるゴミの増加や自然環境の破壊が発生する可能性がある⁴⁹。その他、観光客の増加が地元の人々の誇りを高めることがある⁵⁰など、観光資源としての影響は多様な現れ方をする。

このような住環境の変化は、住民のQOLに影響を与える。先行研究では、住民の観光開発への支持を指標として住民のQOLへの影響を評価している。環境の変化と住民のQOLの関係は、社会的交換理論によって説明される。社会的交換理論では、個人が報酬とコストを評価した上で交換を選択すると仮定している。そのため、観光開発による利益がコストを上回るとき、住民は観光開発を支持する。社会的交換理論に基づくと、住民が観光開発を支持しているとき、観光開発は住民のQOLを高めている⁵¹。

ただし、住民にはそれぞれ異なる価値観、異なる観光資源との関係がある。つまり、社会的交換理論を踏まえて解釈するとしても、環境の変化と住民がそれを利益と認識するかコストと認識するかは相互依存的で複雑な背景の中に成り立っており一様ではない。観光資源から経済的に利益を得ている住民は、地域サービスの向上など他の利益も認識しやすい一方で、負の影響は利益と比較して明白であるため住民の背景によって認識に差が現れにくい、とする研究もある⁵²。

⁴⁷ Margaret Deery et al.・前掲注20, pp.68-69.

⁴⁸ 同上

⁴⁹ Claudia Jurowski and Dogan Gursoy, "Distance effects on residents' attitudes toward tourism." *Annals of Tourism Research*, 31(2), April 2004, pp.296-312.

⁵⁰ Diedrich Amy and Garcia-Buades Esther, "Local perceptions of tourism as indicators of destination decline." *Tourism Management*, 30(4), August 2009, pp.512-521.

⁵¹ Dogan Gursoy et al., "Resident attitudes: A Structural Modeling Approach." *Annals of Tourism Research*, 29(1), January 2002, pp.79-105.

⁵² Kathleen L. Andereck et al, "Residents' perceptions of community tourism impacts." *Annals of Tourism Research*, 32(4), October 2005, p.1072.

そのため、住民の背景によって利益とコストの認識にどのような違いがあるかは事例ごとに考慮する必要がある。住民の背景も観光資源の特徴もそれぞれが独特なものであり、事例によって異なる影響が現れる可能性があるためである。

(1) 方法

本評価案は、地元の人々が彼らの生活におけるタペストリー及びビジターセンターの影響をどのように認識しているかを調査するものとして設計される。観光地化の持つ人々の認識への影響は先行研究から予測されるため、アンケートを用いてそれらの影響についての認識の度合いを質問することが適切である。

(2) サンプリング

調査参加者は無作為に選ぶのではなく、意図的に条件に当てはまる住民を抽出する目的的サンプリングの考え方にに基づき、ガラシールズの住民を次の4グループに分類して募集する。①ガラシールズで働いていてビジターセンターでの文化体験の経験がある。②ガラシールズで働いていないが、ビジターセンターでの文化体験の経験がある。③ガラシールズで働いているが、ビジターセンターでの文化体験の経験がない。④ガラシールズで働いておらず、ビジターセンターでの文化体験の経験がない。

タペストリー及びビジターセンターによって経済的利益を受けているか否か、ビジターセンターでの文化体験に関心があるか否かは最も単純に人々の影響に対する認識度合いに影響を与えると考えられる。このグループ分けは、調査結果の比較やクロス集計といった分析に活用することができる。

地元事業の関係者やビジターセンターの来

訪者については、訪問や出口調査による接触が可能と考えられる。しかし、タペストリー及びビジターセンターから経済的利益を受けおらず、かつ関心のない住民はアンケートやインタビュー調査に対して非協力的である。そのため、既に調査に参加した住民等に相談し、経済的利益を受けておらず文化体験にも関心のない地元の人々を紹介してもらうのがよいと思われる。また、町の中心部の再生プロジェクトに参加しているボランティアの人々に参加者の紹介を依頼することも考えられる。この考えはスノーボールサンプリングに基づく。スノーボールサンプリングは、接触可能な仲介者に候補者を紹介してもらい、仲介者と類似性の高いサンプルを収集する方法である⁵³。

(3) データ収集

本評価案においても、観光客の増加及び町の観光地化によって発生すると考えられる環境変化は、先行研究の例と似たものになることが予想される。つまり、公共サービス（医療、消防、警察など）の質、公共施設（公園や道路）の質、町の景観、路上のゴミの量、自然環境の状態、道路や駐車場の混雑状況、買物の機会、娯楽やレクリエーションの機会、人々との交流の機会、治安、地元への誇り等に影響を及ぼすと予測される。

これらを住民がどのように認識しているかを調査するため、書面によるアンケートを実施する。参加者には、次の文章に対し「強く同意する」から「全く同意できない」までの5段階で回答を求める。参加者に回答を求める際には、タペストリー及びビジターセンターと住民の生活環境の関係を調査している意図を伝える必要がある。

⁵³ Lawrence A. Palinkas et al.・前掲注43

書面によるアンケートの質問案

<p>ビジターセンター開業後にガラシールズに生じた変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共サービス（医療、消防、警察等）の質が改善した。 ・ 公共施設（公園、道路等）が改善した。 ・ 町の景観が改善した。 ・ 路上のゴミが増加した。 ・ 自然環境が改善した。 ・ 町への自動車によるアクセスが改善した。 ・ 買物の機会が増加した。 ・ 娯楽が増加した。 ・ レクリエーションの機会が増加した。 ・ 他の住民との交流が増加した。 ・ 観光客との交流が増加した。 ・ 治安が改善した。 ・ 地元に対する誇りが強まった。
<p>その他、ビジターセンターの開業が住民の生活に与えた影響（自由回答）</p>

なお、鉄道及びバスセンターの整備はビジターセンターの開業に先立って行われたため、上のリストに公共交通機関に関する質問は含まれていない。

(4) 分析

分析は、先に分類したグループごとに行う。アンケートで得られるデータは、順序には意味があるが間隔に意味のない数値であるため、参加者のグループごとに回答の分散や代表値を分析し、比較を行うことができる。また、先に分類した参加者のグループとアンケートの結果でクロス集計による分析を行うことも可能である。分散や代表値の比較を行うことで、異なるタイプの利害関係者の持つタペストリー及びビジターセンターによる生活への影響の認識傾向の違いを知ることができる。

(5) 課題

この評価案には大きく二つの問題がある。一つは、ビジターセンターの建設は町の再開発プロジェクトの一部であるため、町の環境改善をタペストリー及びビジターセンターの影響と言い切ることが難しいという問題である。例えば、交通ターミナルからビジターセンターの間の道は、タペストリーに関係のあるパブリックアートで装飾されている。一方で、ガラシールズの再開発計画は歩道や街灯の整備など、タペストリーとは直接的に関係のない整備も同時に行っている。実際に生じている町の変化は必ずしもタペストリー及びビジターセンターだけの影響によるものではないため、住民の認識を解釈する際には、なぜ彼らがそのような考えているかを同時に考える必要がある。

もう一つの問題は、サンプルの代表性である。まず、各サンプルの母集団の総数を推定することができない。加えて、特に、タペストリー及びビジターセンターから経済的利益を受けておらず、ビジターセンターに来訪したこともない参加者の数は、母集団に対してかなり小さくなることが予想される。他のグループとの傾向の比較は可能であると考えられるが、データが母集団である町の住民全体の傾向を正確に反映していると断言することは難しい。

おわりに

ザ・グレート・タペストリー・オブ・スコットランドは、地域のアイデンティティに強く結びついた文化資源としての特徴と、ガラシールズ中心部の再開発計画の要である観光資源としての特徴を持つものである。

文化資源も観光資源も、多数の要因が非常に複雑に影響し合う社会の中で機能しており、社会的影響を全体として単純に定義することは難しい。そのため、本稿では、社会的影響

を経済的影響、文化的影響、人々の生活への影響の観点に分類し、住民を中心とする個々の利害関係者における事業形態、生活習慣、生活環境の変化に対して質的方法による調査を行うことで、タペストリー及びビジターセンターがガラシルズに与える社会的影響の評価を試みるものとなっている。

経済的影響の評価案ではタペストリー及びビジターセンターによって直接的に影響を受けると考えられる地元の事業者を利害関係者とした。ビジターセンターの来訪者による消費の総量を試算しても、そのうちのどれだけがガラシルズの人々や事業主体の収入となるかを考えることは難しいためである。経済的影響の評価は、地元の事業者にビジターセンターの開業前後での売上げ、従業員数、事業内容の変化を尋ね、変化を分析することで測定することとした。

文化的影響の評価案では、ビジターセンターで文化体験を経験した人々を評価対象として考えた。文化芸術は、それを体験した人々の想像力を刺激することで彼らの行動に影響を与えることが分かっている⁵⁴。そのため、この評価方法は、来訪者のうちガラシルズの住民にビジターセンターでの体験を通して考えたことをその場で尋ね、後日彼らの生活にどのような変化があったかを尋ねることで、文化資源としてのタペストリー及びビジターセンターが人々の生活に持つ直接的な影響を探索するものとなっている。

人々の生活への影響の評価案では、地元事業者、ビジターセンターの来訪者に加え、そのどちらでもないガラシルズの住民を利害関係者に含めている。観光資源としてのタペストリー及びビジターセンターは、地域の公共サービスの質や生活環境に影響を与えると考えられる。住民がどのように生活上の影響

を認識しているかは、彼らとタペストリー及びビジターセンターの関係によって異なる可能性があるため、このモデルでは利害関係者をタペストリー及びビジターセンターによる経済的利益の有無と文化体験の有無によって4つのグループに分けることとした。その上で、それぞれが認識している生活環境の変化を調査し、人々の生活への影響を知ろうとするものとして設計されている。

一方で、本評価案には様々な課題が残されている。まず想定されるのは、社会的影響が観測できないほど小さい可能性があることである。評価チームは、評価プロジェクトの事前準備として、2022年6月9日から15日の間、ビジターセンターで体験の満足度や来訪者の属性についての出口調査を行った。その当時は、タペストリー及びビジターセンターが人々の生活に大きな影響を及ぼしているようには感じられなかった。ビジターセンターが立地する町の中心部に人は少なく、期待されるような観光客によるにぎわいは生じていなかった。

また、地元の人々の来場者が少ないことも特に文化的影響の調査を困難にする可能性がある。出口調査に協力した来訪者のうち、ガラシルズに在住していると回答したのは12人（回答者の約11%）だけであった。ビジターセンターの来訪者の多くは北イングランドからスコットランド南部の年金生活者であり、大卒程度の学歴を持っている中流階級である。出口調査と併せて行った周辺住民への聞き取り調査からも、特にガラシルズの若年層や所得の低い層はタペストリーやビジターセンターでの文化芸術体験に関心がないことがうかがえることから、彼らは直接的な文化的影響を受けない可能性がある。

さらに、将来の評価の際には、今とは異なる

⁵⁴ Kirstin Anderson et al.・前掲注36

る新たな要因がガラシールズの事業、人々の個人的行動、生活環境に影響を与える可能性がある。政策の社会的影響は、未知のものを含め非常に多くの要因が複雑な影響を相互に与えて発生するもので、時間経過に伴って規模が大きくなるとも限らない。実際に評価を行う際には、多様な利害関係者に影響を与える可能性があると考えられる要素をその都度踏まえ、結果を解釈していく必要がある。

ビジターセンターをガラシールズに建設することは、議会で決定されたトップダウンの政策であるため、地元の住民に利益と認識されるような影響をもたらしているか否かを改

めて評価することは、政策的な説明責任の観点からも意義があると考えられる。また、評価を通して、地域に与えている影響だけでなく、地域住民の潜在的な需要や背景の分析が深まることも期待される。タペストリー及びビジターセンターの持つ社会的影響の評価は、タペストリーの文化的価値を高める可能性を持つとともに、ビジターセンターの運営を、地域住民の生活満足度をより高めるよう改善する可能性を持つものである。本評価案が、関係者の意思決定の助けになることを期待する。

【付記】本稿は、執筆者が2021年から2022年にかけて英国アバディーン大学大学院に派遣された際に執筆した修士論文を編集したものである。

【参考文献】本文及び脚注に掲げたもののほか、以下のものを参考とした。

- Burdge Rabel J., “The Social Impact assessment model and the planning process.” *Environmental impact assessment review*, 7(2), June 1987, pp.141-150.
- Chen Huey-Tsyh, “Theory-driven evaluations: Need, difficulties, and options.” *American Journal of Evaluation*, 15(1), February 1994, pp.79-82.
- Coryn Chris L. S., Lindsay A. Noakes, Carl D. Westine. and Daniela C. Schröter, “A Systematic Review of Theory-Driven Evaluation Practice from 1990-2009.” *American Journal of Evaluation*, 32(2), June 2011, pp.199-226.
- Donaldson Stewart I., *Program theory driven evaluation science: Strategies and applications*, Mahwah, NJ: Erlbaum, 2007.
- Emerson Richard M., “Social exchange theory.” *Annual Review of Sociology*, 2, August 1976, pp. 335-362.
- Van Belle Sara.B., Bruno Marchal, Dominique Dubourg, and Guy Kegels, “How to Develop a Theory-Driven Evaluation Design? Lessons Learned from an Adolescent Sexual and Reproductive Health Programme in West Africa.” *BMC Public Health*, 10: 741, 2010.
- The Great Tapestry of Scotland, “Visitor Guidebook.”
- The Great Tapestry of Scotland website. <<https://www.greattapestryofscotland.com/>> (2023. 8. 8 閲覧)
- Weiss Carol H., *Evaluation research: Methods for studying programs and policies*, 2nd edited, Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall, 1998.